

ボランティア活動者たちの今

マスクの着用、ソーシャルディスタンスがもはや当たり前のこととなっている今、活動者のみなさまは、活動に際して、実際にどのような工夫をなさっているのでしょうか。アンケートから集まったアイデアをお伝えします。

- 広い会場を使用
- 予約制にする
- 訪問の活動を電話に変える
- 人数制限をする
- 時間を短縮する
- 活動内容を制限する
- 活動者数を減らす
- (会議で) 検討議題を事前に配布し、効率的な運営をする
- 参加人数を制限する
- 参加者の連絡先を確認する
- 活動の回数を増やし、密になることを避ける
- オンライン企画に参加する
- モチベーション維持のための勉強会

・・・様々な工夫をしながらの活動ですが、最終的には「不参加のメンバーがいることを受け入れる」「休みの期間を設ける」「ワクチン接種の進捗を見ながら決める」「覚悟」をされていることも伺えました。

「選書でバッチリ！」～森の絵本ひろば



「森の絵本ひろば」は読み聞かせの団体です。聞き手のこどもの人数を制限したり、消毒・マスクの徹底などの対策の他、設定された時間内に読み終わられるようにしっかり時間をはかっている活動をしています。そして、どの子も楽しめるおはなし会になるような本を選ぶことにも気を配っているそうです。

8月12日の活動は、戸塚図書館で「夏休みドキドキおはなし会」。読んだ絵本は、『せみとりめいじん』『ぐりとぐらのかいすいよく』『ありとすいか』『とうさんはタツノオトシゴ』『うらしまたろう』『めっきらもっきらどおんどん』の6冊です。

読み聞かせが始まると、子ども達は、真剣な表情や笑顔で聴いています。楽しくて楽しくて仕方がない様子で、何度も絵本の前まで移動したりする子もいました。



コロナ禍でも、絵本の世界に引き込まれ、みんな、楽しい時間を過ごしていました。

「一緒に活動する仲間募集中！」～リリーフ戸塚

「リリーフ戸塚」は結成15年以上になる、筋金入りの住まいと庭の手入れボランティアグループ。電球交換、草むしり、庭木の剪定等、「困った」は緊急事態宣言でも「待った」はありません。真夏の一時期間のお休み期間を除いて、1年中活動が途切れません。一度お願いした方からの繰り返しのご依頼も多く、目下の課題はメンバーの増員！



庭木を切るといっても、そこはプロとは一線を画しています。活動は、あくまでボランティア。高すぎる木もやめておきましょう。まずは、

無理なく安全に出来ることだけ！
(そこはボランティアセンターも確認します！)

「自分の出来ることで誰かの役に立つことがしたい！」
そう思っている方は、ぜひお仲間になりませんか。

お問い合わせは 045-866-8434
とつかボランティアセンターへ

「いつだって準備はOK！」～昭和の調べ



「昭和の調べ」の高田さんは、エレキギターをかかえ、聞く人を、一瞬で懐かしい昭和の世界へ連れて行ってくれます。施設でのイベントが少なくなった時こそ、レパートリー拡大のチャンス！
練習怠らず次なる作戦を練っているんです。

そんな高田さんの最近の活躍は9月2日のさくらプラザ。プロの演劇集団「表現のチカラ」の劇中劇に参加！越後獅子、ベンチャーズのパイプライン、明日があるさ、365歩のマーチ…と次々に演奏。加えて曲間の語りも、曲が流行っていた当時を偲ばせる軽快な名セリフを取り入れる等の工夫がされていて、とても和やかに聞くことができました。また、コロナ禍で一緒に口ずさむことはできませんでしたが、「明日があるさ」や「365歩のマーチ」では客席からの手拍子で会場が一体となり、懐かしい昭和の世界に浸っていました。



お知らせ

昨年度、コロナの影響で中止となった「ボランティアのつどい」(登録ボランティアの皆さまの交流の場)を開催いたします。日時：12月3日(金) 14:00～
3月号に寄稿いただいた澤岡詩野さんを講師にお招きして、お話も伺います。(申し込みは、同封のチラシをご覧ください。) 場所：フレンズ戸塚